



日本キリスト教会信徒大会

ニュースレター NO.3 www.nikki.asia 2015年4月1日
信徒大会実行委員会発行 発行責任者 実行委員長 田部 郁彦

1. 信徒大会に期待する思い

「信徒大会」への祈りと願い

澤 正幸(福岡城南教会牧師)



「信徒大会」の開催が大会に建議されたとき、わたしが願ったことは、この信徒大会を機に、日本キリスト教会が停滞する現状を打破し、将来を新たに切り開いて行くことでした。その願いは日本キリスト教会の現状と未来に対する危機感と結びついています。今、わたしたちの教会・中会・大会の5年後、10年後の姿を思い描いて慄然とし、危機感を抱かない人はひとりもいないのではないのでしょうか。

しかし、そのことが日本キリスト教会にとっての真の危機であるとは思いません。主イエスは「あなたがたは世の光、地の塩である。」と言われました。教会の真の危機は、教会が光であることを止め、塩味を失うことです。そのことの方が、教会の自己保存を願い、消滅を憂うよりも、もっと真剣に問い、祈り求めるべきことです。教会が本当にキリストの教会として使命を帯びるなら、たとえ数の面で小さくなり、目に見える面で変化をこうむったとしても、神様はなお、ご自身のなくてはならない器として教会を生かし用いて下さるでしょう。教会が主から与えられる使命を発見し、その召しに生きることこそ、今、わたしたちにとっての最大の課題ではないのでしょうか。

きたる「信徒大会」に望むことは、日本キリスト教会が、今一度、主のみ前に悔い改めの姿勢をもって立つこと、そして、主イエス・キリストを教会の主にして全世界の主として告白する真実な告白教会として立つようになることです。そのための祈りと学びと、真剣な語らいがなされる信徒大会であるよう、心から願い、そのために熱い祈りを集めたいと思います。

「信徒大会へ願うこと」

森下真裕美(佐呂間教会牧師)



私は幼い時から教会に通っていましたが、そこにはいつも、同年代の仲間がいました。一緒に礼拝もしましたし、たくさん遊びもしました。私にとって教会は、仲間たちと一緒に育ち、育てられる、とても楽しい場所でした。その後、高校生になって転会した教会はとても小さな群れでしたが、今度は中会規模での高校生修養会、更に青年部修養会の機会に、教会を超えた、同年代の信仰の仲間と、交わりが与えられるようになりました。高校生の時、夜遅くまで話し込んだ話題の中には、群れの大小によって生じている課題について、また教会の将来について、などということまでありました。未熟ではあっても、同じ神さまを信じ、真剣に教会を思う仲間たちとの語らいと交わりが、どれほど貴重で楽しいものであったか、十分言葉にすることはできないほどです。

今回実施される信徒大会の場が、期待をもって集まる一人一人にとって、そのような場となり、機会となることを心から願ってやみません。特に、一つの教会の中で、同年代の信仰の仲間を作ることが難しくなっている、子どもたちや若者、また子どもたちを育てる親の立場にある者たちが、この信徒大会に少しでも多く集められ、主にある交わりと語らいによって、本当に喜び楽しみ、励まされればと強く願います。

信頼する良き講師を与えられて、「宣教の新たな展開」のために教えられ、共に考えようとしています。ですが、その場で何か答えを得るといよりも、「宣教の新たな展開」のための担い手たちが、励まされ、希望と展望をもって、それぞれの教会に帰っていき、参加できなかった一人一人にも、それらが分かち合われ、伝えられることが、この信徒大会においては大切ではないかと考えます。そのようにして初めて、この集いは本当の意味で「日本キリスト教会」全体の「信徒大会」になるのではないのでしょうか。

2. 「子どもの集い」へのご案内

「50年後へ、その先へ」

今回の信徒大会では、開会礼拝終了時から終わりまで、併行プログラムとして、中学生までの子どもたちを対象とした「子どもの集い」を企画しています(同封の「バイブル・スタジオ・ジャパンBSJ」のちらしとポスターをご覧ください)。

信徒大会の開催にあたって、50年前の信徒大会を思い起こされる方もたくさんおられることと思います。当時を思い起こして、新たな力に満たされるのではないのでしょうか。そうであるならば、50年後にこの信徒大会を思い起こすのはどのような人たちなのでしょう。この信徒大会が、50年後にも、その先にも、「あのときが始まりだったね」と言って思い起こされるような集いにしたいと願っています。

「子どもの集い」では、会場をBSJというテーマパークに見立てて、聖書の世界にいっしょに入っていこう、と考えています。楽しみながら聖書の世界をめぐることに加え、全国にある日本キリスト教会について互いに知り合うことを目標にしています。そうした中で、何よりも大切にしたいのは、子どもたちの出会いの場をつくることです。いろいろな教会に友だちを作り、各地の教会で時を同じくして礼拝をささげ、その友だちといっしょに教会生活を送っていることを、互いに知り合ってもらいたいと思います。

さらに、こうしたつながりを、一回きりで終わってしまうものにならないで、このつながりを、長い目で見ながら育てていきたいと思えます。ちらしの最後に「このパークの次回開園は？年後と」と記しました。子どもたちが「また会おうね」といって別れて行くこと願い、必ず再会のときをもてるように、応援したいと願っています。

50年前と比べると、教会に若い人々の姿は少なくなり、今年は、神学校で卒業式も入学式も行われませんでした。けれども、わたしたちの群れに子どもがいらないではありません。それぞれの教会で、おとなばかりに囲まれて淋しい思いをしている子どもたちが、この出会いを通して喜びに満たされ、勇気を与えられ、これからの青年の集まりを形成していくことを、心から願っています。

西村ひかり(池田教会牧師)



3. 実務委員会から

(1) ホテルの予約

「ホテルの予約が取れない」という声が寄せられています。

- ①会場から少し離れた場所にあるホテル(「なんば」や「大阪駅周辺」など、会場まで30~40分)の予約は十分可能です。
- ②ホテル側が提示する客室予約の枠には(a)インターネット枠 (b)旅行会社枠 (c)電話枠などがあります。それぞれの枠は、売り出す数に限りがあります。(a)、(b)によって予約できない場合、会場近くのホテルを含め、電話でのご予約を試みてください。
- ③改めてご紹介する会場周辺のホテル。ただし、上記①に従って他の地域のホテルもご検討ください。
 ホテルアウイーナ大阪 06-6772-1441 ダイワロイネットホテル大阪上本町 06-4305-1955
 シェラトン都ホテル大阪 0120-333-001 ホテルトラスティ大阪阿倍野 06-6530-0011

(2) ご紹介を取り消すホテル

前回ご紹介したホテルのうち、下記のホテルのご紹介を取り消します。
アパホテル天王寺駅前、アパヴィラホテル大阪谷町四丁目駅前